

一本のライ麦の根を、細かい毛の部分まで含めて、一直線につなげていくと、ロシアのシベリア横断鉄道の一、^{おうだん}五倍の長さになるそうです。

決して太くはない、一本のライ麦を支えるために、このような長い根が必要なのですね。まっすぐに天を指しているライ麦に、根を持つものの強さを感じます。

それに比べ、根を持たない私たちは、いつも不安定で、ふらふらしてばかりいるような気になってきます。

しかし、私たちにも「根」があるのです。

お釈迦^{しゃか}さまは、「縁起^{えんぎ}」という教えをお説きになりました。これは、「すべての存在は、つながり^{しんり}あっている」という真理です。

さまざまなつながりが、私たちを支えています。

家族をはじめ、近所の人や友人。この国のすべての人、そして世界中の人々が、いろいろな形で私たちとつながり、支えてくれています。人だけではありません。花や鳥、水や空気などの自然も、私たちを支えています。

これが、無限にひろがる私たちの「根」です。

「根」は、まだあります。

私たちがここに存在するためには、両親の二つの「いのち」が必要です。二代さかのぼると、あわせて六つの「いのち」になります。そうしてどんどんさかのぼっていくと、とても多くの「いのち」のつながりが見えてきます。もっとさかのぼるならば、最初^{ほにゅうい}の人類、哺乳類^{はちゅうい}、爬虫類^{りょうせいるい}、両生類^{ぎょるい}、魚類^{たいこ}、太古の地球の海で誕生した最初の「いのち」、果ては、宇宙の誕生^はまで辿^{たど}り着くでしょう。

私たちは、無限に広がり、遙かな時をこえて伸びる「根」によって支えられているのです。

私たちも、一本のライ麦に負けないほどの「根」を持っているわけです。

私たちの「根」は、互いに支えあう形をしているのです。支えあう形をしている「根」を育^{はぐく}むのは、「思いやり」という養分^{ようぶん}でしょう。

私たちは、「思いやり」の心をもって、それぞれの「根」を大切にしていかなければならないのです。